



令和5年度子どもゆめ基金助成事業

「病院や児童福祉施設の子どもが笑顔になる QOL 向上あそびワークショップ体験」

報告書

病気で入院している子どもや、虐待など家庭の様々な背景を抱えて児童福祉施設にいる子どもは、成長発達に必要な人とのふれあいや様々な体験の機会が少なく、長期化したコロナ禍の生活で、以前にも増してストレスも多くなっている。創造性豊かなアートを通して夢中にあそび、仲間と一緒にワクワクと楽しい時間を過ごすあそびと交流の体験を届けて、自然と笑顔になり次への希望や生きる力につながる情緒的な QOL 向上をはかる。



主催：特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-17-6 サンコート新千葉 102 号

TEL：043-301-7262 FAX：043-301-7263

Email:kidchiba@lily.ocn.ne.jp URL <https://chiba.gekijou.org/>

後援：千葉県 千葉市 千葉県教育委員会 千葉県医師会 千葉県小児科医会

ワーク実施一覧 1-9 病院・児童相談所

施設名	実施日時 実施場所	プログラム 指導者	指導者	協力者	子ども	大人	参加総数	参加人数内訳
1 下志津病院	7月26日(水) 10:30~12:30 療育訓練室	「楽しい工作つくって みよう!」 加川きみこ 梶原留美子 北野美子 戸村晶子	4	3	11	3	14	子ども 11(小学生 9 中学生 2) 大人 3(保育士 2 看護師 1)
2 千葉東病院	8月23日(水) 14:00~16:00 3病棟プレイルーム	「夏のクラフトタイム♪ 遊ぼう!作ろう」 大山菜穂子 和田直子 宇野京子 大森智恵子	4	1	3	4	7	子ども 3(小学生 2 高校生 1) 大人 4(保育士 1 副看護師長 1 療育指導室 2 ボランティア 1)
3 国府台病院	11月16日(木) 10:10~12:10 院内学級運動場 小学校教室	「わくわく工作 オンリー ワンを作ろう!」 濱美幸 奥あゆみ 波多陽子 斯波優江	4	4	24	8	32	子ども 24(小学生 5 中学 19) 大人 8(教師 7 地域ボランティア 1)
4 市川児童相談所	7月18日(火) 10:00~12:00 2F 講堂	「からだをつかっていっ しょにあそぼう!」 大潤弘幸 井部直人 大森智恵子 岡田泰子	4	2	43	6	49	子ども 43(幼児 5 小学生 19 中学 14 高校 5) 大人 6人(保育士 2 課長 1 指導員 3)
5 千葉市児童相談所	7月19日(水) 9:30~11:30 スポーツルーム	「ダンスワークショップ」 安西真幸 安西千紗 大塚るい 椎名好子	4	2	26	3	29	子ども 26(幼児 小学生) 大人 3(保育士 指導員)
6 柏児童相談所	8月10日(木) 13:30~15:30 1階食堂	「だれも見たこともない いきものをつくろう!」 永野むつみ 大沢直 棚田純子 中村幸恵	4	2	27	4	31	子ども 27(小学 19 中学 高校 8) 大人 4人(課長 1 指導員 3)
7 中央児童相談所	9月19日(火) 13:00~15:00 4階多目的室	「みんなで Dance Dance Dance」 安西真幸 安西千紗 宇野京子 大森智恵子	4	3	21	9	30	子ども 21(小学生 15 中学生 6) 大人 9(保育士 2 職員 7)
8 君津児童相談所	10月17日(火) 13:30~15:30 2階会議室	「みんなで Dance Dance」 安西真幸 安西千紗 白鳥みゆき 棚田純子	4	2	17	15	32	子ども 7人(幼児 4 小学生 7 中学 3 高校 2) 大人 15人(職員)
9 銚子児童相談所	10月27日(金) 13:30~15:30 会議室 所庭	「からだをつかっていっ しょにあそぼう!」 大潤弘幸 岡本圭 白鳥みゆき 綿貫のぼら	4	2	14	8	22	子ども 12(幼児 5 小学生 5 中学生 3 高校生 1) 大人 7(職員 教員等)

楽しい工作 つくってみよう!
日時: 2023年7月26日(水) 10:30~12:30
場所: 下志津病院療育訓練室
指導者: 加川きみこ 梶原留美子 北野美子 戸村晶子
参加費無料 参加人数: 14人

夏のクラフトタイム♪遊ぼう!作ろう
日時: 2023年8月23日(水) 14:00~16:00
会場: 千葉東病院3病棟プレイルーム
指導者: 大山菜穂子 和田直子 宇野京子 大森智恵子
参加費無料 参加人数: 7人

わくわく工作 オンリーワンを作ろう!
日時: 2023年11月16日(木) 10:10~12:10
会場: 国府台病院院内学級「運動場・小学校教室」
指導者: 濱美幸 奥あゆみ 波多陽子 斯波優江
参加費無料 参加人数: 42人

からだをつかって いっしょにあそぼう!
日時: 2023年7月18日(火) 10:00~12:00
会場: 市川児童相談所 2F 講堂
指導者: 大潤弘幸 井部直人 大森智恵子 岡田泰子
参加費無料 参加人数: 49人

ダンスワークショップ
日時: 2023年7月19日(水) 9:30~11:30
会場: 千葉市東部児童相談所 スポーツルーム
指導者: 安西真幸 安西千紗 大塚るい 椎名好子
参加費無料 参加人数: 29人

みんなとあそぼう! 自由物産つくり
日時: 2023年8月10日(木) 13:30~15:30
会場: 柏児童相談所 食堂
指導者: 永野むつみ 大沢直 中村幸恵 棚田純子
参加費無料 参加人数: 31人

みんなで Dance Dance Dance
日時: 2023年9月19日(火) 13:00~15:00
会場: 中央児童相談所 4F 多目的室
指導者: 安西真幸 安西千紗 宇野京子 大森智恵子
参加費無料 参加人数: 30人

みんなでおどろろ! Dance Dance
日時: 2023年10月17日(火) 13:30~15:30
会場: 君津児童相談所 2F 会議室
指導者: 安西真幸 安西千紗 白鳥みゆき 棚田純子
参加費無料 参加人数: 32人

からだをつかって いっしょにあそぼう!
日時: 2023年10月27日(金) 13:30~15:30
会場: 銚子児童相談所 所庭(雨天時 2F 会議室)
指導者: 大潤弘幸 岡本圭 白鳥みゆき 綿貫のぼら
参加費無料 参加人数: 22人

ワーク実施一覧 10-18 児童福祉施設

施設名	実施日時 実施場所	プログラム 指導者	指導者	協力者	子ども	大人	参加総数	参加人数内訳
10 (社福)大成会 障害児入所 施設不二学園	8月3日(木) 9:30~11:30 食堂ステージ	「みて!きいて!つくって あそぼう!!」 古賀恵美子 松本祐子 清水裕美子 廣瀬節子	4	4	30	4	34	子ども10人(幼児3 小学生14 中学6 高 校7) 大人4(職員 4)
11 (社福)翠燿会 放課後等デイ サービスグリー ンヒルキッズ	8月18日(金) 13:00~15:00 ゆりのき台教室	「何ができるかな?立体作 りわかばやしかよこ 柳田裕子 鈴木佳子 棚田純子	4	2	15	8	23	子ども15人(小学 生14 中学生1) 大人8人(施設スタ ッフ8)
12 (社福)児童 愛護会 児童 養護施設 一 宮学園	10月8日(日) 13:30~15:30 体育館	「からだをつかってあそ ぼう!運動会」 別府智子 安藤明子 棚田純子 滝口淳子	4	2	14	14	28	子ども14(小学生 14)大人14(施設職 員6 里親研修生4、 ボランティア1 パラ スポーツ協会3)
13 (特)いちかわ市 民文化ネットワ ーク放課後等 デイサービス・ ハクナマタ	11月8日(水) 15:00~17:00 活動ルーム	「革でクリスマスオーナメ ントをつくろう!」 井澤智子 斯波優江 北川妙子 楠千枝子	4	3	10	6	16	子ども10人(中学6 高校4) 大人6(施設職員6)
14 放課後等デイ サービス アフ タースクール センターむぎ 畑	11月23日(祝) 13:00~15:00 活動室	「遊ぼう!飾ろ!キラキラ 工作タイム」 大塚るい 椎名好子 宇野京子 棚田純子	4	1	12	4	16	子ども12(小学生4 中学生4 高校生3 大学生1) 大人4人(職員3 ボ ランティア1)
15 (社福)鳳雄会 児童養護施 設ほうゆう・ キッズホーム	12月2日(土) 10:00~12:00 地域交流室	「つくってみんなであそ ぼう」 大塚るい 岡田泰子 棚田純子 滝口淳子	4	3	12	4	16	子ども12(小学生 12) 大人4(保育士・職 員4)
16 (社福)チルド レン・パラダイ ス 児童養護施 設子山ホーム	12月9日(土) 13:00~15:00 集会室・戸外	「体をつかっていっしょに あそぼう」 大潤弘幸 岡本圭 白鳥みゆき 大塚るい	4	3	15	3	18	子ども15(小学生 10 中学生3 高校生 2) 大人3人
17 放課後等デ イサービス わくわく bloom	1月5日(金) 13:00~15:00	「遊ぼう!飾ろ!わくわく 工作タイム」 和田直子 岡田直子 篠藤晶子 宇野京子	4	1	9	8	17	子ども9人 大人8人(職員7 地域ボランティア1)
18 (社福)一粒会 児童養護施 設 野の花の 家	2月4日(日) 13:30~15:30 ホール	「みんないっしょにめい たんでい!」 大森靖枝 鈴木佳子 大森智恵子綿貫のぼら	4	2	18	11	29	子ども18(幼児2 小 学生16) 大人11(職員9 地 域ボランティア2)
合計			72	42	321	122	443	



1. 国立病院機構 下志津病院「楽しい工作 つくってみよう！」

日時：2023年7月26日（金）10:30～12:30

場所：療育訓練室

参加者 14人

（子ども11人 病院関係者3人）

指導者：加川きみこ 梶原留理子 北野美子 戸村晶子

ワークショップの内容

ミサンガストラップ、ホログラムシートでキラキラこま、不思議なマジックカード

男の子達がテーブル準備を率先して手伝ってくれた。ミサンガ、糸7本の配色がどの子も素敵で、子ども達同士で、「黒が入っているのがいいのよね。」「トルネード、きれいになってるじゃん。」「色合いが好き。」等、話しながら教え合い作るのが楽しそうだった。マジックカードは不思議らしく、中2の男子が「謎のものもある。原理を教えてください」と尋ねてきた。「スライムの絵上手ね。」と話したら、「アニメのキャラクターだよ。」と、あらすじまで話し「家族でアニメ見るんだー。」と嬉しそうに指導者との会話も弾んだ。キラキラこま、ホログラムシート4枚の配色を工夫、個性が出ていて、回るときれいだった。シートの切り方をちょっと失敗しても「新しく作る。」と楽しんでた。



子どもの声

- ・とてもうまく出来てうれしかった。
- ・ミサンガがとても楽しかった！
- ・楽しくてもっとやりたい
- ・いろいろな工作ができてよかった。
- ・指導者と色々な話ができて楽しかった。良い作品が作れて思い出になった。
- ・家でできそうで家でもやりたい。
- ・ふだんやらないことができてよかった。

施設関係者の声

・作製した物に喜びや次の意欲へと繋がり、「家でもやってみよう」という声も聴かれた。完成した物を子ども同士で見せ合い、「すごいね」「きれい」等の会話から、お互いに承認欲求も満たされ、自己肯定感も得られたと思う。子ども達全員が興味を示し、とても充実した楽しい時間となった。リラックスして、本当に楽しそうに参加している子ども達をみて、職員も気持ちがリフレッシュした。

2. 国立病院機構 千葉東病院「夏のクラフトタイム♪遊ぼう!作ろう」

日時：2023年8月23日（水）14:00～16:00

場所：3病棟プレイルーム

参加者 7人

（子ども3人 病院関係者3人 ボランティア1）

指導者：大山菜穂子 和田直子 宇野京子 大森智恵子

ワークショップの内容

難易度のちがう4種の工作
・くるくるレインボー・ストローの輪ゴム鉄砲・キーホルダー・スポンジのケーキ

子どもたちはプレイルームの前に並んで待っていた。楽しみにしていて早速、やりたい工作を選び、やり方を聞いて作り、全員が4種類とも作った。くるくるレインボーで、「これでいい?」と何度も確認しながら緻密な作業に集中。出来上がると回し方を工夫し形が変わる様子を「何度やってもあきない」と楽しんでた。ストロー輪ゴム鉄砲では、的になかなか当たらなかったが、あきらめず角度や力加減を変え、当たった時はうれしそうだった。「打った時に的に当たるとわかった!はさんだときがちがう」。高校生はキーホルダーのビーズを石の持つ意味で選んだ。キーホルダーの結び目づくりに難儀していた男子がスポンジケーキでは、「けっこうはやいだろう」と得意顔で7つ作りもつと作りましたそうだった。



子どもの声

- ・楽しみにしていた。もっとやりたい。
- ・とても楽しかった。入院中は楽しみが少ないので色々体験できてうれしかったです!!

施設関係者の声

・子どもたちが最後まで自分の力でやりとげられるよう子どものペースにあわせ、ゆったりと見守りながら指導してくれた。

・病院職員や家族のため等、参加した子ども自身の自己決定のもと、「やりたいことができる」「作りたいものが作れる」過程を経て「渡したい人に渡す」ことに互いの満足度はとても高いと感じた。

・小児科という母子(父子)分離状況と閉鎖空間での生活に明るい取組みをしていただき感謝です。

3. 国立国際医療研究センター国府台病院「わくわく工作!オンリーワンを作ろう!」

日時：2023年11月16日(木) 10:10~12:10
 場所：院内学級の運動室と教室
 参加者 32人
 (子ども24人 病院関係者7人 ボランティア1人)
 指導者：濱美幸 奥あゆみ 波多陽子 斯波優江

ワークショップの内容
 キラキラビー玉の万華鏡
 革細工
 ビーズのストラップ



万華鏡のビー玉の色をいくつも光にかざして迷い決める子、革工作で三角財布など売り物になりそうなほど立派な作品を作る子、ストラップのビーズの組み合わせセンスが素敵なお子、それぞれ楽しんでいました。革工作に磁石を貼り、「机や病院のベッドにもつけられるから嬉しい。」「映えるね」とアイデアを練っていた。なかなか作り始めない子が「あっイニシャル作ればいいんだ!」と革とマスキングテープを組み合わせ始めた。「面白いね、初めて見た組み合わせだよ。」指導者が言うと、はにかんだ笑顔が返ってきた。発想の豊かさにびっくり。友達の作品を見ながら興味を持って「おまえの、いいね」「これなに?」と話しかける子たち、にこにこした雰囲気は教室に広がっていた。まねするのではなくそれぞれ違うところが面白かった。

子どもの声

- ・思った以上にうまくできてすごく楽しかった。完成した時うれしかった。
- ・ビーズがかわいい感じができた。おにぎりかわいい。
- ・万華鏡は簡単で、ビーズは、穴に糸を通すのが難しかった。
- ・いい思い出になった。沢山作品が作れてよかった。達成感があった。

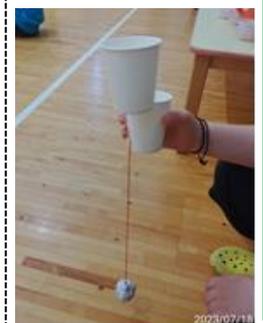
施設関係者の声

- ・出来上がった作品をほめてもらい嬉しかったようだ。たくさんの誉め言葉が自信につながったと思う。
- ・早く作品を完成させた児童が、欠席した児童のために作品を作る優しい面を見せていた。全員が同じものを作る万華鏡からスタートしたので、完成の満足感を味わっていた。

4. 市川児童相談所「からだをつかっていっしょにあそぼう!」

日時：2023年7月18日(火) 10:00~12:00
 場所：2F 講堂
 参加者 49人
 (子ども43人 施設関係者6人)
 指導者：大潤弘幸 井部直人 大森智恵子 岡田泰子

ワークショップの内容
 コミュニケーションゲーム(いろおに 座り方あそび 震源地は誰だ なりきりかくれんぼ) むかしあそび(紙コップけん玉工作 こままわし)



大潤君が「今日は遊びに来ました。遊びたいですか?」幼児が一斉に「あそびたい!」と大きな声で和やかにスタート。いろおに、緑・しわしわと走り回り、床や服の色探し「あったあった」小学生から大きな声があがった。座り方あそび、「富士山・やっほー」「人魚・いや〜ん」等リズムや動きがおかしいのか大きな子たちもゲラゲラ笑って一斉に振りをして楽しそう。震源地は誰だ、親(探す人)になりたい子が続出。「なりきりかくれんぼ」隠れるところのない講堂で「工夫してね」に、椅子に座って先生のふり、板を使い二人でテーブルと隠れ、大潤君に見つけてもらい満足そう。「コマ回し」紐のまき方、投げ方とコツを教えてもらい何回も挑戦し、できてすごうれしそう。「昔やったよ」中高生のお姉さんも一緒に楽しんだ。

子どもの声

- ・かくれんぼがたのしかった。
- ・みんな元気で私も元気をもらえた。
- ・変なテンションの人だと思ってたら、慣れてくると面白い人だなあと考えた。コマが上手な変なテンションのすごい人だったのが驚きだ。
- ・とってもおもしろかった!色鬼もかくれんぼも何か工夫するだけであんなに楽しいとは思わなかった!!私も何かを工夫しているんなことで遊ぼうと思う!

施設関係者の声

- ・皆と一緒に何かする機会は少ないので良い機会だった。しかも、みんなの前で披露したり、注目され嬉しそうだった。
- ・初めて見る行う活動があり、子どもが少し頑張れば達成できる内容で盛り上がりや達成感も得られた。文化的な活動(けん玉、コマ)も日常生活に取り入れられる。
- ・子どもの日々のストレスが発散でき、表情よく過ごすことができていた。子どもにも職員にも素敵な日となった。

5. 千葉市東部児童相談所「ダンスワークショップ」

日時：2023年7月19日（水）9:30～11:30

場所：スポーツルーム

参加者 29人

（子ども26人 施設関係者3人）

指導者：安西真幸 安西千紗 大塚るい 椎名好子

ワークショップの内容

体ほぐし

幼児「ベビージャーク」「アンダーザシー」

小中学「エジソン」「アイドル」

はじめは緊張していた子どもたち。準備運動から全力でやり、思い切り動きたい！発散させたい！という気持ちが伝わった。曲が流れ、指導者の振付のように体を動かせる子が多い。動きが小さくてもリズムにのっている子もいて、うまくできないけど楽しいと、ニヤニヤしている子が増えてきた。班ごとに分かれて、振付を考える。小学生も積極的にアイデアを出し、ステップしているが自信がない中学生。アドバイスもあり、ああこれならできそうだと振付が完成。ワークショップが終わり、全員がサッと指導者のすぐ周りに座った。子どもたちが指導者に対し、安心感や信頼感を持った証なのではないか。

子どもの声

- ・ダンスができたし、自分の考えたことが、うまくいって楽しかったし、元気が出たしうれしかったし、おもしろかったしやれて良かった。
- ・最近はダンスを全然してなくて、久しぶりに踊るととても楽しかった。振り付けを考えたりして難しいことを覚えて踊ったり、いい経験になった。
- ・ダンスをやって元気が出た。すごく楽しかった。

施設関係者の声

- ・色々な特性のある子どもの実態に合わせて、アドバイスの方法やレベルを変えて指導されていた所にプロのすごさを感じた。
- ・普段は自己表現が苦手な子も笑顔で取り組んでいた。自分のアイデアを取り入れてもらえ自信になっていた。その踊りを全員が行い見合うという取り組みも効果的だと感じた。
- ・グループダンスを考える場面で一人一人の発想力や話し合い活動を通して、コミュニケーション能力の必要性や向上ダンスが完成し充実感や達成感がとても味わえたと感じた。



6. 柏児童相談所「だれも見なかったことのないいきものをつくろう」

日時：2023年8月10日（木）13:30～15:30

場所：食堂

参加者 31人

（子ども27人 施設関係者4人）

指導者：永野むつみ 大沢直 棚田純子 中村幸恵

ワークショップの内容

切り絵ダンスする少女の人形劇
封筒や様々な材料や道具を選んでいきものづくり

むつみさんの子ども時代のあそびを聞きながら切り絵のハサミの動きをじっと見ていた。切り絵を開きダンスする少女が1人から2人・・・6人と増えると「スゲェ」と驚いた。クシャクシャ封筒づくりを「もったいない」という中学生の表情が、小学生の雰囲気だんだん柔らかくなっていった。異年齢でひとつの事をやる効果だな。多彩な色の素材、珍しいシュレッター、ハサミ、型抜き、低学年の女の子たちは前半、道具を使ってみて満足そう。「触ると毒があったりして・・・？」と話しかけると「しかけてこないと優しいよ！何もしないよ」と性格を教えてくれた。妖怪や深海魚の図鑑を見ながらつくった作品もユニークで愛嬌あり。中学生女子で黙々と、とても装飾的にアイドルのような生き物にした子もいて、指導者が「私はこれ好きだな～」と言うと静かにニコリした。

子どもの声

- ・見たこともない道具など見れて楽しかった
- ・人形作りとても楽しかったです。またやってみたいです
- ・つなげたりきったりはったりしてたのしかった

施設関係者の声

- ・子どもたちが目を輝かせて夢中になって取り組んでいた姿。それぞれの作品を大切に発表している姿をみて、貴重な経験、楽しい思い出ができたと感じた。
- ・普段、同じことの繰り返しが多いため、このような取り組みは児童にとって新鮮なものであった。
- ・職員としては児童が嬉しそうにしていることは何よりの幸せです。



7. 中央児童相談所「みんなで Dance Dance Dance」

日時：2023年9月19日（火）13:00～15:00

場所：4F 多目的室

参加者 30人

（子ども21人 施設関係者9人）

指導者：安西真幸 安西千紗 宇野京子 大森智恵子

ワークショップの内容

準備運動 ラジオ第一体操の早い曲で体操「エジソン」でオリジナルダンスを作る 発表 ジャンボリーミッキー

みんなで手をつないで「いっせーのせ」起き上がる準備体操。コツを掴みでできるようになり楽しかったようで、休憩時間も一生懸命挑戦していた。ラジオ体操の曲、ボックスステップがだんだん板につき「くつ下脱いだらできる」、指導者まあちゃんの「それでもOK！」に子どもは安心顔。「エジソン」、まあちゃんは、知っている子に「こう？こう？」と振りを聴き出し創り上げていった。男女に分かれ「リーダーやりたい人？」に、元気よく手を挙げた男子、リーダーが頑張ってアイデアを出して創作。お互いに見合う発表はみんなが踊った。最後ジャンボリーミッキーを楽しそうにはじめて踊った。

子どもの声

- ・ダンスの先生たちが最初から最後まで笑顔で教えてくれたので、自分も最後まで笑顔でやれて元気をもらった。
- ・まちがえても気にしないでできた。エジソンのダンス楽しかった。また、ぜったいやりたい！
- ・ダンスを考える？ 発明するのものがすごく楽しかった・またやりたいな・と思った。ただ最初は恥ずかしかったなあ！！エジソンの曲うれしかった。本っっ当！楽しかった！

施設関係者の声

- ・子どもたちのやりたい動きや発言を聞いて子どもたちが表現したい動きをすぐに体を動かして表現する姿を見て「プロは凄い」と感じた。
- ・すべて正解のスタンスで児童がリラックスして発言できる。
- ・普段控えめな子にもこやかに活動していた。アイデアが採用されて喜んでおり、自己肯定感が上がったのではないかと思う。



8. 君津児童相談所「みんなでおどろろ Dance Dance」

日時：2023年10月17日（火）13:30～15:30

場所：2F 会議室

参加者 32人

（子ども17人 施設関係者15人）

指導者：安西真幸 安西千紗 白鳥みゆき 棚田純子

ワークショップの内容

体ほぐしストレッチ
おどるぼんぼりこりん「唱」2グループに分かれて発表 エピカニクス
ジャンボリーミッキー

「お昼何食べた？」「カレー！！」元気に大きな声で答えた。「今日はいっぱい動いてね」準備体操は、会場をピョンピョンはねて笑顔。幼児が大きな子たちの間で転がりそうになりながらポーズして飛んでいた。可愛いがんばりに大人たちが笑顔になって拍手。ゾンビのダンス、子どもたちはゾンビが大好き、指導者まあちゃんの振りをすぐに真似て全員がゾンビに。ぞろぞろいるような盛り上がりだ。時々中学生に振りの相談もして「いいね！いいね！」子どもたちをさらに勢いづけた。中学生が前に出て指導者体験、2グループに分かれて発表をしあった。どの子も主役、幼児も主役、笑顔がはじめていた。

子どもの声

- ・アップから、最後のダンスまで楽しくやれた。少し恥ずかしかったけど、途中からは恥ずかしさがなくなって、思いっきりおどって、おもしろかった。
- ・うまくできてよかった。今日だけしかできないのかな、またやりたいな。
- ・今日のダンス、面白かったし、元気を貰えたので、またやりたい。約二時間のダンスレッスンをやって、すっかり上達した。

施設関係者の声

- ・普段の子ども達からは見られないとても生き活きとしたダンス姿を感じることができた。帰ってからも楽しかった！と笑顔で話してきた、普段は恥ずかしがる子も「また踊りたい」と話していて、今回やってよかったなと思った。
- ・子どもが本気で楽しむ姿が見られ、それを名前を呼んで褒められたりする様子から自己肯定感が感じられた。



9. 銚子児童相談所「からだをつかっていっしょにあそぼう」

日時：2023年10月27日（金）13:30～15:30
 場所：会議室・所庭
 参加者 22人
 （子ども14 施設関係者8人）
 指導者：大潤弘幸 岡本圭 綿貫のぼら 白鳥みゆき

ワークショップの内容

①リーダーを探せ②だるまさんがころんだ③かくれんぼ ④なりきりかくれんぼ⑤いろおに⑥対抗玉入れ
 紙コップけん玉工作 こままわし

所庭で「リーダーを探せ」、指導者大潤さんも苦戦するほど真似っこが素早くリーダーを当てられずに大喜び。「だるまさんがころんだ」、鬼が言い終わってから動く幼児に爆笑！本人は動いていないつもりかな。かくれんぼ、物置小屋にみんなで押し掛けた。すぐに見つかり、残念！買い物かごをすっぽりかぶった子もいてかわいかった。「もう一回やるよ」「やった～！！」。次は色おに、「〇〇ちゃんの洋服のいろ～」「ここにもあるよ」右往左往と探し回りおおさわぎ。玉入れは対抗戦。先生たちも楽しんだ。玉入れで使った新聞紙は手でアイロンかけ！室内で伸ばした新聞紙を小さくまるめて、紙コップのけん玉づくり。「ちょっと大きいよ」「これでいい？」できたけん玉に挑戦、できると「みて～」。また所庭で「こま回し」紐を巻くのが難しい。幼児が回ったこまを手を取ってしまうので「〇〇ちゃんをとめて～」、「習得した！みてみて～」終わるのが名残惜しそう！！



子どもの声

- ・全部楽しかった。今日は最高な1日だ～！
- ・とても楽しい時間があったという間でした。
- ・いろ鬼やなりきりかくれんぼは、やったことがなかったのでもって新鮮でした。

施設関係者の声

- ・一人ひとりに対してユーモアのあるコメントをしてくださり、児童は受容されて喜びを感じた
- ・子どもたちが自分もやってみたくて挑戦することができた。
- ・遊びの考え方や子どもたちを引き込む表情や言葉遣いがうまくて2時間という長い時間にも関わらず集中力を持続させていた

10. (社福)大成会障害児入所施設 不二学園「みて!きいて!つくってあそぼう!」

日時：2023年8月3日（木）9:30～11:30
 場所：食堂ステージ
 参加者 34人
 （子ども30人 施設関係者4人）
 指導者：古賀恵美子 松本祐子 清水裕美子 廣瀬節子

ワークショップの内容

・仕掛け絵本「おおきなおおきな いろいろひまわり」・大型絵本「おふとんかけたら」「へんしんトンネル」
 ・工作「そこそこコマ」「プロペラコマ」「みんなでびよ～ん」「革工作」

集まっていた子どもたちと交流していたおかげで、子どもの緊張感もほぐれ絵本にもすぐ反応し「と～ろとろ」など繰り返したり、「ありちっさい」と絵本の感想が聞こえて来て、みんな楽しんでた。興味がなさそうな女の子も雰囲気は楽しいようで、指導者と話したりして最後にプロペラコマを作り大事そうにしていた。ずっとコマブースで楽しむ男の子、色を塗ったりテープを貼ったり個性的。革にスパンコールや目玉を貼ってずっと作っていた子もいた。プロペラコマを高いところから飛ばしてまわしたり、フラフープを的にしたりいろいろ遊んだ。「これみて」「これはね…」嬉しそうに指導者と色々話していた。

子どもの声

- ・またやりたい、またやる!! みんなと一緒に過ごせてうれしかった。
- ・見ているだけで楽しかった、優しい先生でうれしかった。
- ・初めての場でびっくりした。
- ・コップに書くのが楽しかった。
- ・テープ、ハサミが使えて楽しかった。
- ・最初は小さい子向けかと思いき、やるかやらないかまよっていたが、今回やってみて楽しかったし集中もできた。

施設関係者の声

- ・児童がとても楽しそうに活動に集中して作品作りに取り組んでいた。自分で作って、遊んで、褒められて、自己肯定感が上がっていると感じた。
- ・「やりたい」ができた時の達成感、気持ちを受け止めてくれる安心感、話をよく聞いて取り組んでいる姿「出来たよ!」「見て見て!」など、他者とのコミュニケーションへと繋がり、向上心の上昇へとつながった。
- ・今回の参加、作成で創作意欲が沸いたんだなあと感じた。



11. (社福)翠燿会放課後等デイサービス グリーンヒルキッズ 「何ができるかな？立体工作」

日時：2023年8月18日（木）13:00～15:00
場所：グリーンヒルキッズゆりのき台教室
参加者 23人
（子ども15人 施設関係者8人）

指導者：わかばやしかつこ 柳田裕子 棚田純子 鈴木佳子

ワークショップの内容
ダンボールを自由に使って立体工作を作る



立体工作の説明と自由に、そして失敗はないと話した。材料はダンボール、はさみ、色付けにクレヨンやマジック。ダンボール扱いに慣れている子ども達はすぐに作業開始。頭の中にはイメージがあって、好きなキャラクターや動物、世界でひとつだけの創造物、大好きなママへのプレゼント等手を休めなかった。楽しく作成しながらイメージを声に出す子もいて、子どもの創造力は計り知れないものがある。指導者と話したり職員の絶妙なタイミングのアドバイスや手伝いを頼んだり、「すてきじゃないー」などほめられたりして嬉しそうな姿が微笑ましい。

子どもの声

・肉球の取りつけがむずかしかった。・ママのプレゼントを作れてよかった。自由と言われ自分の好きな物作りたい物が作れてよかった。・うぎぎの白のクレヨンでぬるのがたいへんだった。・どらえもんをじょうずにかけたのがうれしかった。・テレビ、ゲーム、カメラ、車をまともみたいに再現できてよかった。・しゅんくんのお手伝いできてよかった。すごく心がぽかぽかした。とても楽しかった。

施設関係者の声

・工作は好きじゃない！と言っていた子ども達も、先生の作品や説明を聞いて上手じゃなくてもいい、失敗はない、ゴールもない！という言葉で気持ちの切り替えができた。やりはじめると自分の中のエネルギーが少しずつついてきて、誰の真似でもない世界にひとつのオリジナル作品が完成した。達成感から振り返りとして自分の感想を述べる事ができた。



12. (社福)児童愛護会児童養護施設一宮学園 「からだをつかってあそぼう！運動会」

日時：2023年10月8日（日）13:00～15:00
場所：体育館
参加者 28人
（子ども14人 施設関係者6人 研修生4人 ボランティア4人）
指導者：別府智子 安藤明子 棚田純子 滝口淳子

ワークショップの内容
・ポッチャ体験・運動会(班分けゲーム 芋虫ジャンプ 風船運び 追いかけて玉入れ)

嬉しそうに入ってきた男2人組「何やるの？」床のポッチャのコート2面を見て「これ何？」と興味を示した。はじめて玉を投げる。どうやる、どうやる？とわいわいがやがや。すぐに覚えて投げてみる。ジャッジボールのそばになげると歓声があがる。「上手だ、上手だ、いいね～」と褒めてくれるとうれしそうな笑顔。ルールを直ぐに理解して試合開始。大人と子どもの混合チームで挑戦。ジャッジボールのそばにボールを置いた子、「どうだ！見たか！」と自慢げな顔。うまく投げると「やった～！」とハイタッチ。作戦をねってみんなで盛り上がる。「年下に負けた！この先いきていけない！」とがっくり大の字に伸びた子がいてみんなで大笑い。車椅子でやってみようと、パラスポーツ挑戦。バースデイラインのゲーム 無言で誕生日順に並ぶゲーム、「何月？」と指で尋ねあう。みごとにキレイに並んだ。風船運びは足がもつれてしまうほど元気いっぱい走った。大人も童心にかえって一緒に遊んだ。

子どもの声

・すごくてのしかったので次もさんかしたい
・ポッチャのしかった。ふうせんであそんでたのしかった
・ぜんぶ楽しかった。もういっかいやりたい。ボールを作れた。おてつだいできた
・ポッチャがちょーむずかしかったけれどたのしかった。ボール入れおいかけてこは早すぎてたいへんだった

施設関係者の声

・施設にいる子ども達は何かしら心にトラウマを抱えている子も多い。大人との関わりを避けたり触られたりするのがだめな子もいる。この遊びでは自然な形で肩を組んだり、頭をなでてもらったり「触れる」ことの心地よさを取り戻す機会になった。



13. (特)いちかわ市民文化ネットワーク放課後等デイサービス・ハクナマタタ 「革でクリスマスオーナメントをつくろう!!」

日時：2023年11月8日(水) 13:15~15:15
 場所：活動ルーム
 参加者 16人
 (子ども10人 施設関係者6人)
 指導者：井澤智子 楠千枝子 北川妙子 斯波優江

ワークショップの内容
 革の説明
 革のでクリスマスオーナメント
 を作る

「そりに乗ったサンタさんを作りたいけど・・・」「熊が好き」と、作るものを決めてきていたり、迷いながらもゆっくり考え、創作のスイッチがはいると、あっという間に形になりいくつも作ったり、スタッフとおしゃべりを楽しみながら思い思いに革の創作を楽しみ、できたという満足そうな表情が沢山あった。好きな色の革にスパンコールをボンドでたくさんつけていったら、あら、豪華なオーナメントになった。最後に一人ずつ前に出て作品披露、拍手をもらって嬉しそう。

子どもの声

・楽しかった。・いろいろな作品を作れてまんぞくした。どうぶつがいろいろなようにゆうこうかつようされているのがわかっていのちの重さを知った。・前も熊作ったけどクリスマスバージョンは初めてで帽子をどこにつけるかよった。

施設関係者の声

・普段の生活であまり考えない皮が革へなっていくこと、革の手触りなど考えたり、体験する良い機会を得ることができた。
 ・子どもの発想をそのまま形に出来て楽しそうだった。自由に作成出来るので、ワクワクしているのが伝わってきた。命の尊さを感じられたのと、優しく教えてくださり、ほめてもらえて嬉しそうでした。
 ・体験前、少し不機嫌だった子が体験が始まるとニコニコしながら意欲的に取り組んでいた。キレイにできたねと褒めてもらい嬉しそうだった。



14. 放課後等デイサービス アフタースクールセンターむぎ畑 「★遊ぼう！飾ろう！キラキラ工作タイム」

日時：2023年11月23日(木祝) 13:00~15:00
 場所：活動室
 参加者 16人
 (子ども12人 施設関係者3人 ボランティア1人)
 指導者：大塚い 宇野京子 椎名好子 棚田純子

ワークショップの内容
 くるくるレインボーダブル
 革工作

最初と最後では子どもたちの表情が全然違っていた。はじめ、不安そうに上級生に抱っこされていた子ども、積極的に自分のイメージを形にして満足気になり活発に遊んだ。相撲を大好きな男の子は、赤いやぎの革でまわしを作りたいと体に巻き付け、革をどうつなぐか悩んでいたが、指導者がパンチで穴をあけ紐で結ぶのは?と言うと、パッと顔が明るくなった。できあがると身に着けて得意げに相撲の構えも披露。革工作やった男子二人は「くるくるレインボーをやらないで後悔しない?」と問われて「後悔する!」と即答。指導者に教えてもらいながら細かい作業をやり続けて完成させ、いろいろな形に変形させて楽しんでいった。

子どもの声

・くるくるレインボーや革のバッグチャームを作ることができてとても楽しかった。
 ・くるくるレインボーがきれいにまわしたらきれいだった。またつくりたいです。
 ・どんどんアイデアが出て、つくるのが楽しかった。
 ・たのしかったので感どう。

施設関係者の声

・子どもたちのつくりたい気持ちを尊重して、イメージしていたことを形にしていく楽しさなど体験できた。児童の発想を大事に見守りつつ、さり気ないフォローをしながら本人が達成感を抱けるように導いてくれた。
 ・子どもたちの楽しそうな様子、創造力豊かな作品を見て、私たち(むぎ畑スタッフ)までとても幸せな気持ちになった。
 ・私たちがほめると照れておこるのに、指導者にはお礼まで言ったので超感激だった。大満足。



15. (社福)鳳雄会児童養護施設 ほうゆうキッズホーム 「つくってみんなであそぼう」

日時：2023年12月2日(土) 10:00~12:00

場所：地域交流室

参加者 16人

(子ども12人 施設関係者4人)

指導者：大塚い 岡田泰子 棚田純子 滝口淳子

ワークショップの内容

ストロー鉄砲

飛ばしてキャッチ

パクパク人形



「パクパク人形」、人形のイメージがわいてすぐにとりかかる子や見本の人形を動かして遊ぶ子も。男の子、口部分を、緑、紫、赤といったサイケデリックなマジックで彩色、両端に腕の部分を持ち抜いて組み立て、足もくりぬき「お母さんだよ!」と見せてくれて黙々と作っていた。隣の女子、口に赤いギザギザ線を入れて、なんだか怖い口だな〜と思ったら、ボディを真っ青に塗って「サメです!」小さい魚まで添え、口に入れ「ばくばく」と見せてくれた。「飛ばしてキャッチ」は、ティッシュの玉をマスキングテープでいくつも作り満足そうに飛ばして楽しそう。「ストロー鉄砲」、輪ゴムをかけて飛ばす。「やったー! 飛んだよ!」「あれ〜! 引かなかったまんまだ!」「自分の方に飛んできた!」「なぜ?」何回も試して調整、安定すると仲間と競争、タコ糸にぶらさげた的当てや、飛行距離の順位をつけたり楽しそうだった。

子どもの声

・私がいちばん楽しかったのは、てっぼうが1番、ポップコーン2番、人形作り3番。てっぼうの理由は、的にうつのが難しかったけどとても楽しかった。2番目の理由は、みんなでいっぱいボールを飛ばしたのがとても楽しかった。3番目の理由は絵を描くのが大変だった。楽しかった。

施設関係者の声

・3つの製作が用意されていたが、皆で一斉に同じものを作るのではなく、子ども達一人一人のペースで作ることができる体制だった。紙コップのおもちゃをこだわって作りたい子。次から次へと沢山作りたい子など、色々な子がいたが、一人一人のニーズを満たすことができる仕組みになっていると感じた。



16. (社福)チルドレン・パラダイス児童養護施設子山ホーム 「体をつかっていっしょにあそぼう」

日時：2023年12月9日(土) 13:00~15:00

場所：集会室&戸外

参加者 18人

(子ども15人 施設関係者3人)

指導者：大潤弘幸 岡本圭 白鳥みゆき 大塚い

ワークショップの内容

・名前を覚えるゾンビゲーム・色おに・かくれんぼ・リーダーを探せ・コマまわし・しっぽとり・リレー・だるまさんがころんだ・対抗玉入れ・けいどろ

元気で早く遊びたくてしょうがない様子。ゾンビポーズで、友達の名前を覚えゲームから、盛り上がった。かくれんぼでは色々工夫して隠れ、地蔵になった高校生、段ボールの箱にすっぽり入った子、空気清浄機の後ろから手と足が出ている。コマ回しで一生懸命「一人でできた!」と線香花火に挑戦。高校生も手載せコマができるようになり、真剣に何回もあきらめずトライ。できた時の顔は嬉しそうに自信に満ち溢れていた。外で思いっきり遊び心身を発散。しっぽ取りでは大きな声を出して全力で走った。子どもからリクエストのリレー、迫力がすごい。最後の大潤さんと高校生アンカー、ゴール前で高校生が力を抜き、優しさが見えた。だるまさんがころんだは、厳しいルールは無視で群れて自由に遊んだ。けいどろは、思いっきり駆け回り小学生から高校生大人まで、はあはあと息が上がりながら、連続して遊び込んだ。子どもたちの影が緑の芝生に長く伸び、群れてあそぶ子どもの幸せ感が見えるいい光景だった。

子どもの声

・またやってみたい
・コマのコツを知れてよかった。
・コマ、むずかしかった。たのしかった。
・みんながきてくれてうれしかった。
・たのしかった
・かんがえるのがむずかしかった。

施設関係者の声

・場を一気に変えてしまう雰囲気づくりや世界観に引き込ませる力は圧巻でした。
・一つ一つの遊びをとっても深みがあり、子どもたちが遊びの世界に引き込まれていく姿を見て、とても充実していると感じました。



17. 放課後等デイサービス わくわく bloom 「遊ぼう!飾ろう!わくわく工作タイム」

日時：2024年1月5日(木) 13:00~15:00
場所：活動室
参加者 17人
(子ども9人 施設関係者7人 ボランティア1人)
指導者：和田直子 岡田直子篠藤晶子 宇野京子

ワークショップの内容
くるくるレインボーダブル
革工作



「コナン好き」とコナンのクイズを出しながら、とても楽しそうに工作する子や、工作をしながら、自分の話(学校ではポジティブだねと言われる、こういうのは作りたくないけど思い出だから作る、など)をしてくれた。一人一人が指導者といっぱい話しながら工作していた。好きな色の革がなかった子が、マジックペンで塗り重ねて自分好みの色を作り出した。その発想や、革のすべてを塗りつぶす作業をする根性に驚いた。「私、本好きなの。」と、葉を作っていた女の子、バラの飾りの色の組み合わせをいろいろ試し、「これ、薄い紫に見える?」と、周りに話しかけながら色のバランスを楽しんでいた。途中で「私、チアやってるの。みて」と、開脚や側転を見せてくれた。好きなことがあると、いろいろなことにもやる気が出るんだなあ、と実感。革の小物を思い思いに作り、次にくるくるレインボー作りに行く子が多かった。出来上がると、回し方を工夫しているような形になるのを楽しんでいた。



子どもの声

- ・また来てください。みんなやさしかった。
- ・またワークショップをやりたいです。
- ・くるくるレインボーでいろんなわがみにたいに花とかつくれておもしろかった。
- ・革のクラフトをもっとやりたい!

施設関係者の声

- ・子どもたちが食いつくようなアイデアばかりでとてもためになった。作りたい物を悩む子たちが進んで自発的に物づくりに励んでいた。革細工の機会は日ごろ少ないと思うので、いい機会だった。

18. (社福)一粒会児童養護施設野の花の家「みんないっしょにめいたんてい」

日時：2024年2月4日(日) 13:30~15:30
場所：ホール
参加者 29人
(子ども18人 施設関係者9人 ボランティア2人)
指導者：大森靖枝 鈴木佳子 大森智恵子綿貫のぼら

ワークショップの内容

- ①からだほぐし「たんていってなににする人?」
- ②「目、耳、頭の修行」
- ③たんていは体をきたえる
- ④たんていメガネで探そう(木 お花 怪しいおとしもの)

おーちゃんが「たんていって何する人?」低学年の子たちは「おしりたんてい」「さがす!」と反応が早い。「たんていは目でよく見て、耳でよく聞き、頭でよく考え、心で感じる」心構えを伝授。後ろ向き3人がジャーンとサングラスとハンチング姿のなりきり探偵に変身、子どもたちは大喜び。修行を笑いながらどんどん前を出て積極的。演じる子も当てる子もとても楽しそう。紐がついたスイカのビーチボールをグルグル回してくぐり抜ける修行は大きく動き盛り上がった。怪しい落とし物は、暗号を書いたちぎった画用紙、たんていメガネで見つけ「なんだ!なんだ!」と拵げ、ジグソーを完成。が、数字の文字列は意味不明!12の数字を時計の文字盤にあてはめていくと、「くろいかばんをさがしてね」できた。一件落着!「シーグラス」と「修了証」を手渡され、「これからいろんなことが起きても、自分でだじょうぶって胸をトントンするの」子どもたちにメッセージだ。



子どもの声

- ・さいごにやった虫めがねで、かおとか暗号をさがしてのしかった。本当にたんていみたいだった。
- ・今日はいろいろおもしろいんぎょうげきやめいたんていのしゅぎょうなどをおしえてくれてありがとう。シーグラスだいにあつかいます。

施設関係者の声

- ・子どもの主体性を大切にしながらワークショップを進めて、マイナス感情が残ることがなかった。また、五感(見る、聴く等)に訴えかける内容は、今後の子どもたちの生活や人との関わりに活かされていくものと感じた。最後にはお守りとおまじないのプレゼントもあり、生きる力の源が増えたと思う。

今年度の取り組み経過概要 ～コロナ禍 4 年目で 5 類になって～

- ① 3 年余に渡るコロナ禍での自粛自制・マスク生活は、子どもたちの遊びやコミュニケーションの機会を奪い、心身の発達が危惧される状況は、どの施設でも感じていた。病院は実施を切望していたが 5 類になってもコロナ感染防止対策に変わりがないため外部の入室が難しい状況が続き 3 病院の実施にとどまった。そこで昨年の経験から放課後等デイサービスや児童養護施設に広げて声をかけ実施した。コロナやインフルエンザの感染状況で延期したところもあるが、18 か所での開催ができた。新しく声をかけたところも、芸術文化による交流あそびで笑顔いっぱいになり QOL 向上に効果的であると評価され、次年度継続実施を希望していた。
- ② 当団体ではコロナ感染防止対策のガイドラインを作成し、事業実施 7 日前から健康チェックシートで、指導者・スタッフの健康チェックをして臨んだ。また、各施設のガイドラインに基づき、感染防止対策の徹底をし、安心と安全を可能な限り保証することを心がけた。

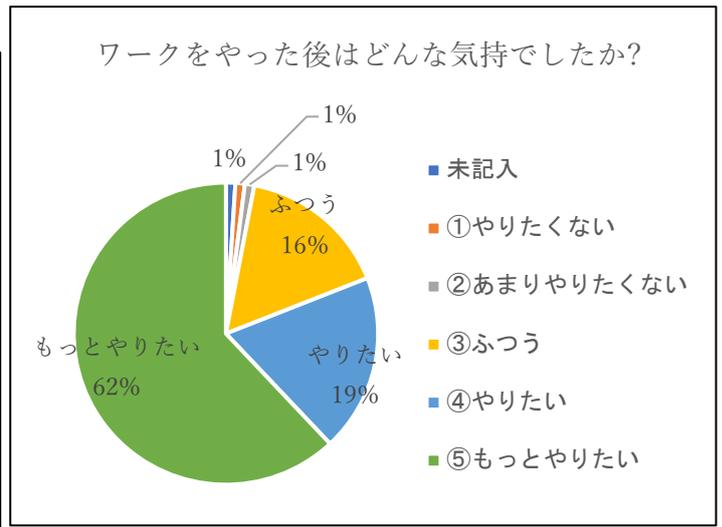
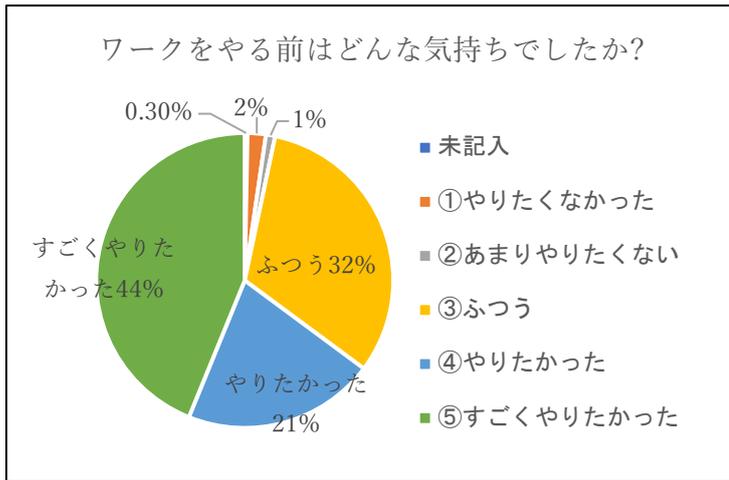
事業の成果と課題

- ① 普段の施設での生活の課題とニーズを把握し指導者を選び、文化的な遊びや体験ワークショップを提供した。コロナ禍で病院での実施が予定通りにはかなわず、QOL の向上や自己肯定感の向上を必要とする実施個所を拡げ、3 病院 6 児童相談所 5 児童養護施設 4 放課後等デイサービスで計 18 回実施し、443 人（子ども 321 人 大人 122 人）が参加した。 [16 年間の実施実績：12 病院 34 施設 延べ 250 回 10,229 人参加]
- ② 参加した子どもたちは、たのしかった、おもしろかった、やれてよかった、うれしかった、きぶんがよかった、げんきになった、と、積極的に参加した様子がわかる。また、友達と協力したり、指導者とのふれあいで思いっきり遊び、またやりたいとの声が多かった。
- ③ 施設職員は、普段あまり見られないような子どもたちの表情や笑顔が多く見られたことを一番に評価していた。そして、自分から主体的に活動し、満足感達成感を感じていて、もっとやりたい意欲が高くなったととらえている。個々の持つ能力、できることを発見できたという声もあった。
- ④ プロのパフォーマーや地域の遊びの専門家による指導者による質の高いアート体験や遊びの交流の中で、子どもたちを丸ごと受け止める対応の様子が、施設の職員に評価された。自分の表現や工夫を褒めてもらい子どもの表情がぱっと変わり、友達へのコミュニケーションにも広がり、自己肯定感や QOL 向上につながる。
- ⑤ この事業では施設の担当者と指導者をつなぐコーディネーターの役割が重要である。丁寧な打ち合わせで子どもたちのニーズにあわせてプログラミングを心掛けた。当日は協力者も参加し、子ども達ひとりひとりとコミュニケーションをとり、全体の安全にも配慮していた。施設との信頼にもつながっている。
- ⑥ 課題
どんな状況にある子どもにもあそび、体験の機会を絶やさないこの事業は、定期的な継続が必要である。「こども大綱」のこどもの遊び体験活動・ウェルビーイングの重要性を実現するために行政との連携が必要だと考える。



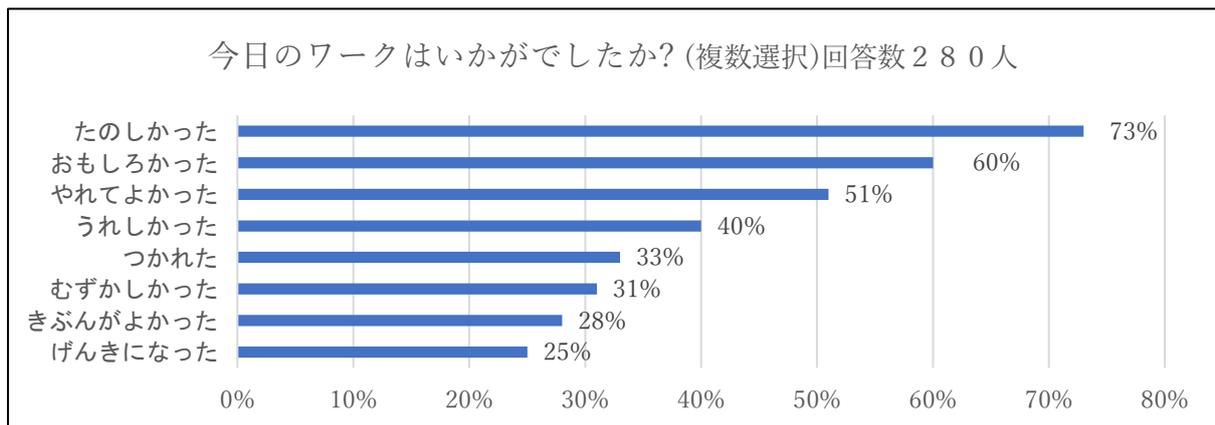
【コーディネーター】 市川淑江 宇野京子 越後久美子 大塚るい 大森智恵子 大山菜穂子 岡田泰子
恩田奈央子 買場都明 加藤香都代 笠原直子 桑原信子 椎名好子 塩沢千秋
清水百世 白鳥みゆき 鈴木佳子 高橋知子 滝口淳子 棚田純子 多田優子
中川香子 中村雪江 中村幸恵 早川良美 綿貫のばら

◆資料 1 子どものアンケートから見た子どもの気持ち (280 枚、アンケート回収率 87%)



「すごくやりたかった 44%」や「やりたかった 21%」と半分以上の子どもたちがワクワクしてワークショップを楽しみに待っていることがわかる。何をやるのかどんな人が来るのか、ドキドキしている子どもたちも多くいて、「ふつう」「やりたくない」という気持ちの子も3分の1いた。

ワークショップをやったあとは、約80%の子どもが「もっとやりたい」「やりたい」と、答えている。「ふつう」と答えている子もいるが、みんな笑顔いっぱいになっていた。「やりたくない、あまりやりたくない」と、チェックした子も自由記述では楽しかったと書いていて、100%の子どもたちが楽しんでいた。

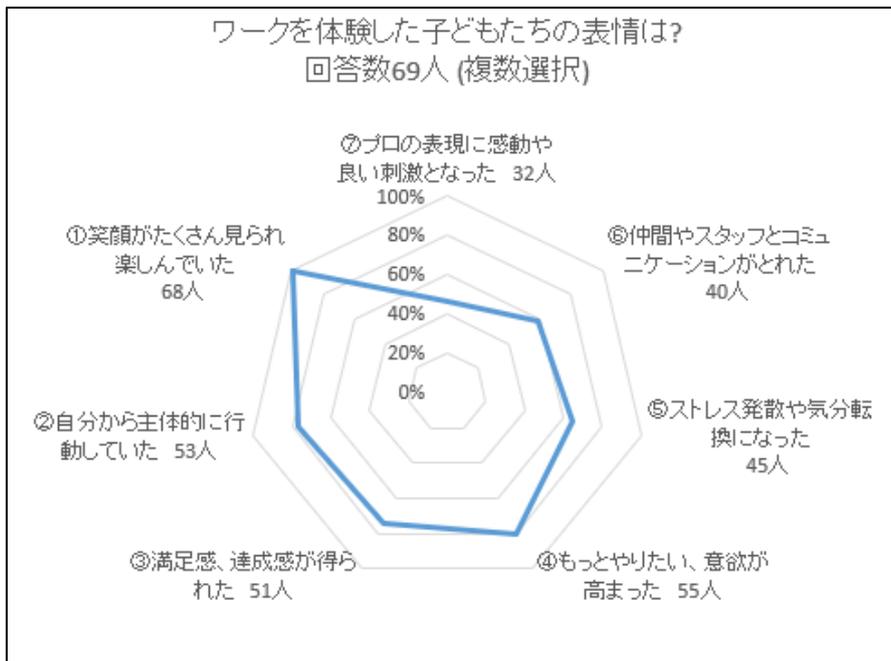


複数回答のアンケートで、「たのしかった」と73%の子どもたちが答えている。また、「たのしかった、おもしろかった、やれてよかった、うれしかった、きぶんがよかった、げんきになった」と、前向きな気持ちが全体の82%を占めており、この体験が子どもたちにとってどんなに楽しくうれしかったかが明らかである。積極的に参加した様子がわかり、QOLが高まったと言える。

■アンケートの自由記述から

・ 沢山作品が作れてよかった 達成感があった。 / ・ ワークショップの方と色々な話ができ楽しかった。 / ・ 入院中は楽しみが少ないので色々体験できてうれしかった!! / ・ こまを回せる先生があまりにもうまくてびっくりした。またやってみたい。 / ・ 何か工夫するだけであんなにたのしいとは思わなかった!! 私でも何かを工夫しているんなことで遊ぼうと思います! / ・ 毎日思うんですけど「またやりたいな」と思った。ワークショップでつけた道具がと一つもかわいかった。 / ・ きょうだけしかできないのかな、またやりたいな。 / ・ ダンスをやって元気が出た。すごい楽しかった。 / ・ またやりたいです。ぜんぶやったから、ちがうのをやりたい。 / ・ くるくるレインボーでいろんなわざみたいに花とかつくれておもしろかった。またつくってみたい。 / ・ ともだちにもプレゼントをわたせて、ふたつつくれたのでうれしかった。 / ・ みんながきてくれてうれしかった。 / ・ 今日の体験で、勇気を大量にもらった。 / ・ 虫めがねでかおとか暗号をさがしてたのしかった。本当にたんでみたいだった。

◆資料 2 施設関係者のアンケートから見えた自己肯定感を感じたところ (69 枚 複数記述)



「笑顔がたくさん見られ楽しんでいた」とほぼ 100%の方が回答している。「もっとやりたい、意欲が高まった 80%」「自分から主体的に行動していた 77%」「満足感、達成感が得られた 74%」と続いている。
「子どもが笑顔」になることを大切にしてきた事業であり、他の設問での記述からも、体を動かし芸術的なプログラムを体験したことで、QOL の向上や自己肯定感が高まったと、評価している。

■芸術やあそびの専門性のある指導者の力、ここはプロだなと感じたところがありましたか?

- ・説明も視覚的にもわかるようにと説明用紙を用意していただけたのはありがたかった。迷っている子どもたちへ「こういうのもあるよ」と材料の提示や、完成品の見本を見せてくれて見通しが持てたようである。
- ・子ども達の中に溶け込むことが早く、作製中や完成後も常に声をかけて次の意欲や満足感へと繋げており、子ども達が生き生きとした表情だった。
- ・場を一気に変えてしまう雰囲気づくりや世界観に引き込ませる力は圧巻でした。
- ・心温まる言葉や笑顔があふれていた。自由に紙を切ったり貼ったりでき大きな感動を与えていただいた。
- ・一つずつわかりやすく教えてくださり、子ども達も楽しそうだった。まきこんで楽しませることがプロだと、すごいなと感じた。
- ・子どもをひきつけるような話し方や遊び方が上手く、自分もこのようにできたら良いなと思うところばかりだった。
- ・全力で演じる表現力には惹かれるものがあった。子どもたちの自由さも受け止めながらワークショップを止めることなく進めるのはすごかった。

■この事業の成果や子どもの自己肯定感や QOL 向上につながったと感じられましたか?それはどのようなことでしたか?

- ・完成した物を子ども同士で見せ合う姿もあり、「すごいね」「きれい」等の会話から、お互いに承認欲求も満たされ、自己肯定感も得られたと思った。
- ・病院職員や家族のため等、参加した子ども自身の自己決定のもと、「やりたいことができる」「作りたい物を作れる」過程を経て「渡したい人に渡す」ことに互いの満足度はとても高いと感じた。
- ・子どもたちが目を輝かせて夢中になって取り組んでいた姿。それぞれの作品を大切に発表している姿をみて、貴重な経験、楽しい思い出ができたと感じた。
- ・普段は自己表現が苦手な子どもも笑顔で取り組んでいた。自分のアイデアを取り入れてもらえて自信になった。
- ・一人ではなく誰かとともに何かをする、楽しむ体験をすることができたと思う。
- ・自分の作りたい物をどうしたら作れるかなど、自分で工夫しながら作る姿がみられた。

■実施後感じられた、本事業へのご意見、今後のご要望、改善点などをお聞かせください。

- ・”自由に” 工作すること、指先を使うことは子供たちにとって良い刺激となりました。言葉でなくても作品を通して自分をアピールする機会も有効なんだと思った。ぜひ来年もお願いしたいです。
- ・子どもだけでなく職員も一緒に楽しむことができ、子どもに対しての対応の仕方などとても参考になった。どのようにしたら子どもの機嫌がよくなり楽しく参加できるのか、すごく勉強になりよい経験となった。今後もこのような時間をたくさん作っていただけると嬉しいです。
- ・子どもの日々のストレスが発散でき表情よく過ごすことができていた。子どもにとっても職員にとっても素敵な日となった。ありがとうございました。

＜こども基本法 2023 年 4 月 1 日施行＞(一部抜粋)

こども基本法は、日本国憲法、児童の権利に関する条約（以下「こどもの権利条約 1」という。）の精神にのっとり、次代の社会を担う全てのこどもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指す。

＜こども大綱の策定 2023 年 12 月 22 日 閣議決定＞(一部抜粋)

全てのこども・若者が、日本国憲法、こども基本法及びこどもの権利条約*の精神にのっとり、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、ひとしくその権利の擁護が図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができる社会。

こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」

～全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会～

1 ライフステージを通じた重要事項として

- (1) こども・若者が権利の主体であることの社会全体での共有等
- (2) 多様な遊びや体験、活躍できる機会づくり（遊びや体験活動の推進、生活習慣の形成・定着）

1. 遊びや体験活動は、こども・若者の健やかな成長の原点である。例えば、こどもが遊びに没頭し、身体の諸感覚を使い、自らの遊びを充実、発展させていくことは、言語や数量等の感覚などの認知的スキルや、創造力や好奇心、自尊心、想像力や思いやり、やり抜く力、折り合いをつける力などの社会情動的スキルの双方を育むことに加え、多様な動きを身に付け、健康を維持することにつながり、ひいては、生涯にわたる幸せにつながる。こういった遊びや体験活動の重要性、学びへのつながりや、その機会を保障することの重要性を改めて認識した上で、国や地方公共団体、地域、学校・園、家庭、若者、民間団体、民間企業等が連携・協働して、こども・若者の全てのライフステージにおいて、年齢や発達程度に応じて、自然体験、職業体験、文化芸術体験など多様な体験・外遊びを含む様々な遊びができるよう、青少年教育施設の充実を含め、地域資源も生かした遊びや体験の機会や場を意図的・計画的に創出する。地域や成育環境によって体験活動の機会に格差が生じないように配慮する。

2 ライフステージ別の重要事項 (1) こどもの誕生前から幼児期までこどもの誕生前から幼児期までは、こどもの将来にわたるウェルビーイングの基礎を培い、人生の確かなスタートを切るための最も重要な時期であるとともに、この時期への社会的投資が次代の社会の在り方を大きく左右するため、社会全体にとっても極めて重要な時期である。また、乳幼児は多くの時間を家庭や地域の中で過ごし、幼稚園・保育所・認定こども園への就園状況も異なるなど、育ちの環境は多様である。その多様性を尊重しつつ、保護者・養育者の「子育て」を支えることだけでなく、「こどもの育ち」に係る質にも社会がしっかりと目を向け、保護者・養育者の就労・養育状況を含むこどもの置かれた環境等に十分に配慮しつつ、ひとしく、切れ目なく、ウェルビーイングの向上を図ることが重要である。乳児期におけるしっかりとした愛着形成を基礎とした情緒の安定や他者への信頼感の醸成、幼児期における他者との関わりや基本的な生きる力の獲得を通じて、一人一人のこどもが、かけがえのない個性ある存在として認められ、自己肯定感をもって成長することができるようにしなければならない。



令和5年度子どもゆめ基金
「病院や児童福祉施設の子どもが笑顔になる
QOL向上あそびワークショップ体験」
報告書

発行日 : 2024年 3月1日

発行者 : 特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

発行所 : 特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-17-6 サンコート新千葉 102号

TEL : 043-301-7262 FAX : 043-301-7263

メールアドレス : kidchiba@lily.ocn.ne.jp

 National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を
おこそう

令和5年度子どもゆめ基金助成事業報告書